

「自ら学ぶ力をつける学習指導に関する研究」

～主体的・対話的で深い学びによる授業改善と「考え、議論する」道徳の授業づくり～

I 主題設定の理由

今回の学習指導要領の改訂では、社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むために身につけさせる資質・能力として①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、③学びを人生に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養の三つの柱が掲げられている。単元の題材など内容や時間のまとまりを見通しながら「何を学ぶのか（教科の目標）」にとどまることなく「何ができるようになるか（資質・能力）」を明確に見据えたなかで「どのように学ぶのか（学習過程の改善。主体的・対話的で深い学び）」の授業改善、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」をはたらかせる学びの過程の重視を求めている。これまで①～③の資質・能力を身に付けさせるために「どのように学ぶか」の更なる学びの質の向上に向けた研究・取組を行ってきた。研究主題「自ら学ぶ力をつける学習指導に関する研究～主体的・対話的で深い学びによる授業改善～」として平成29年度から3年間の継続研究に取り組んだ。そのなかで研究の3つの柱1「思考・判断・表現力を高める取組（山北スタイルづくり）」、2「基礎学力定着の取組」、3「教材教具の開発・工夫とICT活用」を通して主題にせまべく研究を進めてきた。1年目に話型の研究（話し合いの手順や方法、発表のルールの確立）に取り組み、2年目に課題提示の工夫（考えるときの視点や方向性のもとになる「問い」づくり）、3年目にまとめと振り返りでの工夫に取り組んできたが、今年度はこれまでの研究を継続するなかで、授業過程の相互解決での話し合い活動の研究にも取り組むことができた。

そして、本校は、昨年度から令和3年度までの3年間、山梨県道徳教育推進事業の指定を受け「特別の教科 道徳」の研究の機会をいただいた。今年度は、「考え、議論する」道徳の授業づくりを目指して、「発問の工夫」、及び「評価文（通知表への記述）」の研究へ取り組みを進めた。昨年度の課題として挙げられた「生徒の意見を有効活用する手段の工夫」へも取り組むことができた。

II 研究の具体的取組内容と方法

1 思考・判断・表現力を高める取組→「山北スタイル」の確立

<p>【教師】①課題提示の工夫</p> <p>↓</p> <p>②自力解決支援</p> <p>↓</p> <p>③相互解決・展開</p> <p>↓</p> <p>④評価・まとめ</p>	<p>・生活等と結びつく課題</p> <p>・意欲につながる課題</p> <p>・生徒自ら思考・判断・表現するための支援</p> <p>・ペア、グループ解決、全体解決</p> <p>・評価(生徒・教師)</p> <p>・まとめ(定着と繋がり)</p>	<p>【生徒】①課題の把握(的確)</p> <p>↓</p> <p>②自力解決(記述ノート等)</p> <p>↓</p> <p>③相互解決(学び合い)</p> <p>↓ ※協働的学習</p> <p>④まとめ(学習整理)</p> <p>※振り返り</p>
--	---	--

2 基礎学力定着の取組

①自主学習ノートの作成（家庭学習ノート）の実施

②朝学習 → 読書活動の定着

3 教材教具の開発・工夫とICTの活用

・主体的・対話的で深い学びに繋がる教材教具（含：ICT）の研究

4 「考え、議論する」道徳の授業づくり（山梨県道徳教育推進校令和元年度～3年度）

①発問の工夫：生徒が多面的・多角的に考える

②通知表への記述：視点を明確にした評価文の作成

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1)「山北スタイル」を、さらに各教科、各個人で工夫し授業に取り入れることができた。生徒も共通したスタイルに慣れ、グループでの話し合いも有意義に行い、個人の課題解決に役立てることができた。
- (2)「自主学習ノート」「朝学習」の継続した取り組みにより基礎学力が向上している。また、帰りの会で家庭学習の準備として自主学習ノートに5分間取り組むことが定着してきている。
- (3)大型モニターを、授業改善に向けて、多くの教科でモニターを活用したり、生徒の理解を支援したりするための教具を工夫することができた。
- (4)道徳科の研究授業、評価文（通知表への記述）の作成に教職員全員で取り組むことができた。

2 課題

授業においては、「山北スタイル」で一定の成果を得たが、今後さらに話し合いの手順や方法の確立をしていきたい。また、基礎学力定着についてもより有効な手立てを考え、発展させていきたい。コロナ禍で話し合い活動を制限されている中、考えを付箋に記入し、班内で互いに確認し合う取り組みを行った。「どのように議論を行うか」という面では、また、他者と話し合いをする（他者との対話）ということにこだわらず、自分との対話教材との対話ができるような授業の工夫に取り組むことができた。

「考え、議論する」道徳の授業づくりでは、発問について、何を問返すのか、どう問返すのかについて、道徳的な価値を考えて発問の工夫、自己内対話（当事者になったつもりで心の内を考える）を深めるための工夫を行った。今後は、個人の意見をすべて表出させることが、よいのかを考え、机間巡視をするなかで意図的に生徒を指名して発言させるようにする配慮について研究を深めたい。通知表への記述については視点をより明確にした評価文の作成に取り組んでいきたい。コロナ禍のため道徳科の保護者への授業公開はできなかった。

来年度に向けて、課題を校内で検討して、教職員と生徒が一体となり、日々の教育活動が行えるよう研究を進めていきたい。

（研究主任 萩原修）